

日曜日は、2つの礼拝があり、第一礼拝は通常「聖書預言・アップデート」第二礼拝は通常「聖書の学び」に捧げますが、今日は、2つの説教をします。1つ目の説教では、皆さんを「ヨハネの福音書 18 章」に招きます。33 節からです。今朝の箇所を読み、祈りますので可能な方は、ご起立ください。繰り返しますが、「ヨハネの福音書 18 章 33 節」から神の御言葉をお読みします。

## ヨハネ 18

33 そこで、ピラトは再び総督官邸に入り、イエスを呼んで言った。「あなたはユダヤ人の王なのか。」

34 イエスは答えられた。「あなたは、そのことを自分で言っているのですか。それともわたしのことを、ほかの人々があなたに話したのですか。」

35 ピラトは答えた。「私はユダヤ人なのか。あなたの同胞と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのだ。あなたは何をしたのか。」

36 イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」

37 そこで、ピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたの言うとおりです。わたしは、真理について証しするために生まれ、そのために世に來ました。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」

38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何なのか。」こう言ってから、再びユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私はあの人に何の罪も認めない。」

39 過越の祭りでは、だれか一人をおまえたちのために釈放する慣わしがある。おまえたちは、ユダヤ人の王を釈放することを望むか。」

40 すると、彼らは再び大声をあげて、「その人ではなく、バラバを」と言った。バラバは強盗であった。祈りましょう。今朝の学びを祝福下さるよう主にお祈りしましょう。

天のお父様。主よ、あなたの真理の御言葉に感謝します。あなたが私たちの前を進まれ、あなたの御力と強さで、私たちに命を与えてくださり、今日、あなたが与えて下さる教訓を私たちが分かり、生活の中で適応できますように。そうすれば、私たちは真理の証人となれ、あなたが私たちに召して下さった信仰に強くなれます。ですから主よ、今ここで私たちに会ってください。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

ありがとうございます。ご着席ください。今朝の最初の学びのタイトルは、「真理の試練」です。これは、イエスが十字架にかけられる前の裁判の一部を扱うものですが、私たちは皆、同意できると思います。真理は、今日もなお裁判中です。既決であっても、真理が勝ちます—以上—

しかしこのように、あらゆる種類の真理に対する憎しみは、地の隅々まで、史上最高潮です。私たちはこれを目にしませんか？ 会全体が、理性よりも、真理よりも相対主義を受け入れています。全てが主観的です。すべての声が尊重され、どんな声でも受け入れられ、真理の声以外なのです。今日のこの箇所は、イエスが、当時のユダヤのローマ総督、その名はポンティオ・ピラトに尋問されておられます。これは大変良く知られている箇所ですが、ピラトの質問にイエスがどう答えられるか、またピラトがイエスにどう答えるか、パリサイ派の人々や民衆と同様注目せずにはられません。またそれが、ピラトのイエスへの対応にどのような影響を与えたのか。私はピラトを使いたいと思います。ええ、ピラトについてを話し

ますよ。ピラトを世の描写にし、世が真理をどう扱うかを。なのでピラトを取り上げます。これだけで真理に対して聞く耳がないことを示すいくつかの兆候を見ることができます。嘘のチャンネルにしか合わせられない耳。それがここで見れます。それが、今の世の中です。耳が、自分の聞きたい事だけ気に留める。彼らの心は決まっています。どんな根拠があっても、関係ありません。自分が信じている事を信じる。それだけ。それは真理じゃありません。では私にとっての真理は何なのか？ 行のガラクタ。人々は嘘に生きていて、それを楽しんでいます。最初にこの記述を読むと、その多くは見落とされることがあります。しかし、主のお許しを頂いて、今日のシンプルな目標は、この記述からこれらの真理を引き出し、真理を否定する人たちが使う戦略の一端を明らかにしたいと思います。皆さん、聞こえていますか？ 理を否定する人たち。今のこの世には、そういう人がたくさんいます。それを私たちの学びで解説したいと思います。まず最初に、聖書の時間軸の中で私たちがどの位置にいるのか、なぜ人々がそのような行動をとったのか少し背景を説明する必要があります。では、過越の祭りが近づいていて、イエスの裁判が続いています。ですから、物事を早く進める必要があります。ユダヤ教の指導者たちは、過越祭の邪魔になるような事はしたくないので物事を非常に迅速に進める必要があります。これが事を対処するのを急がせます。この時点で、朝早くから、イエスが裁判にかけられています。イエスの審判はピラトにかかっており、イエスの告発者はユダヤ人の指導者たちです。結局、神への冒涇という罪に問われることとなります。しかし、ローマの法律にありません。皆さんそれを心に留めてください。事実早い話が、

「さあ、自分の法律に従い、イエスを処分せよ。冒涇だから、法律に従って、石打の刑にしなければならぬ。」しかし、彼らは言いました。「いや、私たちが法律を破ることになる。笏は私たちから取り除かれた。私たちが死刑を制定することはできない。」彼らがどう振舞っていたか分かりますか？ らが何をしているか分かりますか？では、この中で、イエスはどのような弁明をしておられるのか。シンプルです。真理。真理です。それがイエスの弁明です。守備のあり方に関して常に私たちの一番の模範であるべきは、真理です。忘れないでください。彼らの目には、既にイエスは有罪でした。彼らの心は既に決まっています。彼らは真理を気に留めていなかった。しかし、彼らがどう感じていようとも、イエスとはかく真理を語られました。皆さん聞いていますか？では、33節本文に戻り、神の御言葉をお読みします。

## ヨハネ 11

### 33 そこで、ピラトは再び総督官邸に入り、イエスを呼んで言った。「あなたはユダヤ人の王なのか。」

さて、ここでピラトは既に、ユダヤの指導者たちに、イエスについて、イエスの罪状について述べています。民衆はイエスのことで大騒ぎです。そして朝早く、ピラトの立場から考えると「早く終わらせないといけない。」ある程度は分かりますね。ピラトは何もしようとしません。何にも。だから自分の総督官邸に戻り、イエスを連れてくるよう命令します。それからピラトはイエスに質問します。「あなたはユダヤ人の王なのか。」この質問をした理由の1つは、この時点で、イエスに対する正式な告発がなかったからです。何ひとつ。しかし今、もしイエスがある種の政治的な王だと主張するなら、そうなれば、国家反逆罪に問われる可能性も出てくるでしょう。しかし、これはそういうケースとは違います。それにピラトは、どうなるのか分かっています。彼には、ここで何が起きてるのか、良い思い付きがあります。ピラトは彼ら（ユダヤ教指導者）がイエスを憎んでいることを知っています。彼はそれを理解しています。彼は役割を果たしているのです。私の考えは、、、これを考えてください。この時点で、今、イエスとピラトが話している時点で、イエスは傷めつけられ、暴力を振るわれ、傷だらけでした。事実、ギリシャ語原文では、「あなたはユダヤ人の王なのか。」という箇所は、ピラトが殴り倒されたイエスを見て、こんな感じで、

痛々しく見て言います。「あ、あ、あなたが…ユダヤ人の王なのか？」強調です。ピラトは目を据えて「あなたはユダヤ人の王なのか。」ではありません。言い換えれば、ピラトは、イエスが自分にとってもローマにとっても全く脅威ではないことをはっきりと分かっていました。イエスは革命を起こしたわけではなく、全国的なクーデターを起こすつもりもありませんでした。ですからピラトには、イエスは取るに足らなかったのです。しかし、神の御言葉を知り、真理を知っていたと想定される国家にとって、お～真理は常に脅威です。嘘しか言わなくなった今。皆さん、聞いていますか？ 聞き覚えがないですか？ もっと話せるのですが、34節35節に進みましょう。イエスが、質問に対してピラトに答えられます。神の御言葉をお読みします。

## ヨハネ 18

**34 イエスは答えられた。「あなたは、そのことを自分で言っているのですか。それともわたしのことを、ほかの人々があなたに話したのですか。」**

イエスが仰っているのは、「あなたが言っているのですか？彼らが言っているのですか？」もちろんイエスは、ピラトの答えを分かっておられます。ここにもう1つ注意しておきたい点があります。救世主から威圧は全くありません。全く恥じてもおられません。映画では、すべて間違っています。完全に間違っています。イエスは真理に大胆であられます。イエスは、ピラトへの応答でさらに確信があらわれます。このピラトは、権威ある総督でしたが、イエスに全く困らせませんでした。それが私たちへの教訓です。世の支配者に対処する時に、真理に敵対する物は何もないのです。なぜ私たちは屈するのか？ 理に適っていません。私たちは真理に立たなければなりません。逃げ隠れせず。彼らは支配者だから、彼らは真理の上に何も支配できません。真理に敵対すれば全てが崩れ去ります。ピラトでも体験するようになるのです。35節にあります。神の御言葉が続けます。

**35 ピラトは答えた。(ピラトは言わば動揺しています。)**「私はユダヤ人なのか。」

「私はユダヤ人なのか。」彼は自分の権限を見せたいのです。自分の国だというのに。

**…あなたの同胞と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのだ。…**

しかし、その後そんな皮肉を言いながら、元に戻ってこう言うのです。

**…あなたは何をしたのか。」**

自分を告発していますよ。良い質問です。「あなたは何をしたのか。」考えてみてください。もし私だったら、ピラトが私に「あなたは何をしたのか。」と聞くなら、「なぜ”あなたは何をしたのか”と聞くのですか？あなたが私を捕らえたのです。それで理由を知らないのですか？」私はあなたに拘束されているのです。あなたが今そう言うなら、質問は、「なぜあなたは私を拘束したのですか？なぜ私を釈放しないのですか？」何より、ピラトは分かっています。しかし、彼は一方で国民を喜ばせたいと考え、同時に、正義の味方のように見せたい。しかし、神は、人の心をご存知です。ご存知です。ピラトは、この真理に何かを期待しますが何もありませんでした。ピラトは全く倫理的な人間ではなかったと認識する必要があります。彼はそうではありませんでした。実際、ユダヤの歴史家フラウィウス・ヨセフスは、ピラトが精巧な水道設備を作るため神殿から金を巻き上げていたと書いています。人々がそのことに異議を唱えたら民衆を殴らせていました。だから、彼は逃げるのです。その他、ピラトがしたこと多くは、倫理観が全くない人だと分かります。考えてみてください。ユダヤ教の指導者はそれを知っていました。

「汚いことをしたいときは、汚い人のところへ行け。」彼らの邪悪な小さな欲望を実現させるため、ピラトは完璧でした。しかし、そうは言っても真理は悪を暴き、悪を追い詰め、そして最終的に悪を滅ぼしま

す。

質問：私たちは適切な姿勢で悪に対処しているか？

悪に対して答えを出し、対処すべき時と、場所、方法があります。その方法とは、常に神に従うべきだという事。邪悪なピラトが私たちの生活に入り込んで、私たちにある種の質問をしようとする時、私たちは、彼らの聞きたいように答えることを求められていません。皆さんついてきていますか？ 私たちはそれに縛られることはありません。悪はしばしば、自分をよく見せるため質問をするのが好きです。でしょ？ 私たちは日々、それに対処しているのでは？ 特に多くの社会問題に。問題なんて何もありません。悪はそれを良く見せようとし、多くのクリスチャンは騙されます。私たちの生活に、邪悪で世俗的な裁判官、つまり争ったり、私たちに苛立たせることを望む人がやってきて、クリスチャンを冷たく、愛がないように見せます。それが彼らの戦術。その1つです。ここに来て、こんな感じです。

「ではあなたはクリスチャンなのですね？」そうですよ。そう始まって、「ええ、クリスチャンです。」でしょ？（会衆：はい。）「だからあなたは、同性婚は信じないんでしょうね。」そこであなたは、意地悪なクリスチャンとされる。愛は愛です。多くの話題で、1つだけじゃありませんよね。彼らが何をするか分かりますか？ 何度もクリスチャンが後ずさりしています。「いやあ、ちょっとね。複雑なんですよ。」いいえ！違います！ 全然複雑じゃありません。これがクリスチャンの皆さんへの罠です。私たち全員に。そういう尖った質問をされた時に答え方は非常に簡単です。彼らの思うようなイエスカノーかのような、締めくくりではなく、違います。あなたに負担がかかります。そんなことをしてはいけません。そんなことを与えてはいけません。ダメです。そういう質問が来たら、こんな風に答えて下さい。

「神はどう思っているのか？ 神は同性婚をどう考えておられるのか？ 神の御考えに、私は同意します。」全てにそれを使えます。「あなたは真理には逆らえません。一日中、私に敵対できても、真理に逆らうことは不可能です。あなたは.....壊れるでしょう。」それが良い事です。私たちは、神が仰る事に同意します。自分がしたい全てで神を裁こうとしても、神に最終決定権があるのです。真理を裁くのは大きな間違いです。あなたが真理の声を聞きたくないからといってそれが真理でなくなることはありません。事実、真理を信じない者はすべて、常に偽りに束縛されます。次の聖句に移る前に 私たちを解放するため、真理ご自身が進んで拘束された事にも留意ください。「ヨハネの福音書 8 章 31 節 32 節」を読んで、そのことを考えたことがありますか？ 神の御言葉をお読みします。

## ヨハネ 8

**31 イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。」**

**32 あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」**

私たちはこれをよく耳にします。しかし、考えてください。その約 10 章後に、イエスは拘束されます。それを考えましょう。でも、どうです？ イエスの御言葉は、束縛されていません。皆さんついてきていますか？ 私たちは、信じることを選んだユダヤ人同様、イエスの御言葉に従うことを選ぶので、真理を探する必要はありません。世は真理を探し求め、行き交っています。

**あなた（イエス）のみことばは真理です。（ヨハネ 17：17）**

本文を続けます。イエスは、ピラトにご自身が王であることを話されます。36 節、お読みします。

## ヨハネ 18

**36 イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったら、わ**

たしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったでしょう。しかし、事実わたしの国はこの世のものではありません。

ここで3度、イエスはピラトに王国があることを告げます。3回です。イエスはピラトに、ご自分のために戦うしもべがいるのを告げられます。ご自分の王国がこの世にあったなら。これを考えましょう。少し前のイエスは、オリーブ山からエルサレムまで、イエスについて行ったのは何万人もの人々だと推測できます。もしイエスが反乱を煽りたかったのなら、難なくできたことでしょう。なぜならピラトの兵力は、3000程度しかなかったとされています。それを考えてください。全く脅威ではありません。もし起こっていたなら、脅威だったでしょう。イエスはピラトに仰いました。「わたしの国はこの世のものではありません。」聖句の中の見えない部分ですが、ピラトはこの宣言に全く反応しなかった。たぶんピラトは、イエスをただのおかしな人だと思った。恐らく、この世のものではない王国に関する馬鹿げた主張に無反応だった。どんな場合でも、ピラトは、この質問をする必要性を感じなかった。「あなたの王国はどこにあるのか？」それが分かりますか？ 世が真理を攻撃しようとするとき、よく使われるもう一つの戦術は、関連する質問を完全に回避すること。ついてきてますか？ 関連する質問を回避。私たちがどれほど頻繁にこれを目撃しているか考えてみてください。真理が試されていて、今こそ、この問題を解明するための質問をする時です。しかし、関連する質問をするのではなく、迂回する。なんて書いてありますか？ 私たちに何と語っていますか？ こんな記者会見をよく見ませんか？ 持ち出すのは嫌なのですが、私が言っている事分かりますか？ この質問を試してみませんか？ 実はひとつあるんですよ。記者会見じゃないです。これはどうです？ 女とは何か、これとあれとそれについて論争があるたびに、あなたが聞いたことのない質問があるのを知ってますか？ OK。彼らは、卵子が受精するとどうなるのか、という映像を持ってます。その中で、精子が上下に動いているのが見られますね。聞いてます？ それから卵に入り、潜り込みます。それから妊娠期間を経て、それがデジタル化されていますよね？ 聞いてますか？ どうやって男が妊娠するかを見せてください、そのように。それが関連する質問でしょ。「ねえ、それを見せてよ。」図解してみましようよ。「お～それは尋ねたくないですね。私たちは聞きません。いくつかの真理が明らかになるから。」意図的です。意図的だから、少なくとも彼らが既に知っていることを証明します。人々は自分が何をしているのか、そしてその理由を分かっています。真実じゃないなら、真実を隠蔽しようとしなないでしょう。でしょ？ それがこんにち目にする事です。私たちの社会は、真理を抑圧という戦略を推進する動きが非常に多くあります。キャンセルカルチャーです。真理を言うや否や、「あ～！！ダメダメダメ。」放送禁止！ 私は気をつけないと、ユーチューブに明日追放されるかもしれません。J.D.牧師に怒られますよ。-(笑)- なんということでしょう。でも皆さん、言っている事分かりますね。誤情報、事実誤認(行為)、彼らは、～～化、～～状態という言葉を使いますよ。真理を押さえ込むために。知ってますか？ それって自分への告発ですよ。あなたが知らないと思っているその真理について責任を負うのです。知ってるのに。分かっています。権力者はそれを支配したいのです。だから聞く質問をコントロールします。でも彼らは分かっています。ピラトは、それがもっと深いものだと十分承知していました。彼は分かっていました。恐らく、イエスの王国がどこのなのかを気にしなかった理由の1つは、

- 1) ピラトは、イエスの王国の一部になるつもりがなかったから。
  - 2) ピラトは、自分が既に属する王国のために戦うことの方に興味があった。
- またはおそらく

3) 上記の1)と2)の両方。

私はここで推測していますが、私が何を言いたいのか、お分かりいただけたらと思います。悲しい事に、クリスチャンが、あまりにも頻繁に、自分がピラトの王国に属しているように振る舞います。でしょ？

私たちは神の国から来たと主張します。しかし 私たちの戦いの資源はすべて、この世の王国のためにあるのです。悲しいのは、この王国はサタンによって支配されています。その一部になりたいのですか？ 彼は、邪悪な給料を払い十分な従業員がいます。私たちは、この世の暗闇の王国を覆い隠すキリストの王国の天蓋の下で、キリストに支配されるべきです。「ローマ人への手紙 14 章 17 節」神の御言葉をお読みします。

#### ローマ 14

**17 なぜなら、神の国は食べたり飲んだりすることではなく、聖霊による義と平和と喜びだからです。**

これが分かりますか？ これは、この暗く歪んだ世にいる間、私たちが皆が発揮すべき属性です。私たちは、ただ食べたり飲んだり、日々の生活に追われるだけの肉体だけの活動をしているわけではありません。私たちは、神の義のもとに活動しています。神によってのみ生み出される、世にはない平和を世に送り出し、喜びを、世が持つてふりしかできない真の喜びを宣言するのです。世は喜びが何かを理解していません。この全てが聖霊の御力でなされます。現在なされている方法では、まもなく取り去られますよ。引き止める者が取り去られると、想像を絶する悪が、子羊の御怒りに備えて、やって来ます。しかし、その王国は、この世のものではなく、ピラトが関連する質問をしていたなら、彼はイエスからこう言われたかも知れません。

「わたしの国は、この世のどんな王国にも、見たことも、辿り着いたこともない愛によって結ばれた神の国です。」ピラトは興味がなかったようです。では、37 節と 38 節いわば、もう少し対話があります。神の御言葉を続けて読みます。

#### ヨハネ 18

**37 そこで、ピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたの言うとおりです。わたしは、真理について証しするために生まれ、そのために世に来ました。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」**

あ～大変美しいです。美しくないのが、ピラトの発言です。

**38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何なのか。」こう言ってから、再びユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私はあの人に何の罪も認めない。」**

ピラトよ。おめでとう。私たちはあなたにそう言えたでしょうね。しかし、イエスはまだ拘束されています。ここで関連する質問がされたとは言えません。しかし真理に向き合う時に利用されるもう 1 つの戦術も示されました。これから見ていきます。これについて考えてください。

36 節で仰った「わたしの国はこの世のものではありません。」という御言葉に関連して、ピラトは、イエスが王であるかどうかにかかわらず興味がないようです。ピラトがイエスにどんな王なのか、正確に尋ねたことはないようです。ユダヤ人の王というだけでなく、どんな王なのかを。

「何が違う。あなたはどんな王なのですか？ 特に、あなたに人が大騒ぎをしている。」

ピラトは尋ねなかったにもかかわらず、イエスは、ご自分が誰で、なぜこの世に来たのかをピラトが完全に理解しているかどうかにかかわらず、宣言されます。1 つだけ確かなのは、ピラトは十分、いや、それ以上に理解していました。ピラトの前でイエスがされたのは、そのようにピラトに語られることで、イエ

スはピラトに真理の御言葉をすべて証しされました。それが主のなさったことでした。この総督、高官、その肩書きは、またしてもイエスにとって何の違ひもありませんでした。イエスは、今なおピラトの証人です。イエスは彼に完全に真理を伝えられました。これは、どんな肩書きの人がいようと、すべての人の前でやるべきことです。証しする事。真理は恐れがありません。怯えながら伝えてはいけません。神が証しする機会を私たちの前に置かれると仰れば、聖霊の力を借りて行くのです。臆病にならずに。信じるなら、あなたは宣言します。私たちは、同じように証人になるべきです。使徒パウロがこのことをテモテに念を押します。「第一テモテ 6 章 12 節 13 節」神の御言葉をお読みします。

## I テモテ 6

**12 信仰の戦いを立派に戦い永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、多くの証人たちの前で素晴らしい告白をしました。**

そして 13 節、聞いてください。

**13 私は、すべてのものにいのちを与えてくださる神の御前で、また、ポンティオ・ピラトに対して素晴らしい告白をもって証しをされたキリスト・イエスの御前で、あなたに命じます。**

その告白とは何か？ それが、真理の告白でした。イエスは真理の証人となりました。なぜならイエスが真理だからです。これが分かりますか？ あの対話の全てが、イエスはピラトに立ち会われた証人でした。ピラトは、このやりとりの中で、主から救いを与えられたでしょう。話し合ったでしょう。イエスはピラトに、ご自分がこの世の者ではない王で、真理を証しするために来た者で、その真理は真の生ける神にのみ属するものだと言ったでしょう。それがピラトの中にあつた疑問だったはず。だからこそ主は、すべての人が直面する、あるいはこれから直面する、良き告白を目撃されたのです。ですからイエスは、宣言されるのです。

**「真理に属する者はみな、(みなです) わたしの声に聞き従います。」**

神の真理の、イエスの御声をあなたは聞いていますか？

「あなたがわたしの声を聞くなら、聞く者はみな、真理に属します。」

その時ピラトが救われていたら、シンプルにこう言ったでしょう。「わたしはあなたの御声を聞きます。」

「わたしはあなたの御声を聞きます。」しかしピラトから出た言葉は、彼は返事を待つ事さえせず、自分の言葉で返しました。あの有名な言葉です。「真理とは何なのか。」真理が自分の目の前にあるのに。ここでピラトに示された神の御言葉は、拒絶されました。私たちはこんにち、このこの滅びゆく世から拒絶され続ける真理の声を目にします。まず注意したいのは、これも真理に直面すると世が使っている戦術で、なぜなら世が真理に敵対すると、来る筈の反応はよくブロックされ、無視され、待たずに、捨てられ、聞くことから妨げられます。分かりますか？ まるでピラトのように、「真理とは何か。」そして、戸外へ飛び出す。「答えは要らないのですか？」「要らない、要らない、要らない.....」彼らは、最も身近な表現だと思ふのが「知らぬが仏」の規範で生きているのです。私は知らない。あなたも知らない。誰も知らない。真実は彼らが知りたくない、ということです。真理は決して正当な手続きが与えられず、その代わり、回答が認められないようするのです。資格がありません。世は真理を憎みます。私は世にこう言います。「もう長くはないよ。もうすぐ、真理が非常に希薄になって”真理とは何か”という問いはなくなり、”真実はどこに行ったのか”ということになるでしょう。」

真理はどうなったのでしょうか？ どうなったか、知りたいですか？ あなたが、はりつけにしたのです。あなたが拒絶したのです。それが起こったのです。それくらい、真理はある時点で希薄になっていき

ます。でも、まだです。真理に、神を褒めたたえます。もちろん私たちにはイエスがいます。お～御言葉ご自身です。真理の御声です。しかしピラトのように、今の世の大半は同じ位置を占めます。世は「真理とは何か」と言います。今話した通り、「お～どうやって物事を知れるんだい？」と。でしょ？

「絶対がない以外、絶対なんてない。」と。人が夢見るような話を聞くのですか？ 何事も意見の相違があります。大変悲しいです。しかし、神はご自分が真理であり、神の道は完全だとおっしゃいます。人々は、神の御言葉を試すのではなく、真理の御声から学び、耳を傾けるのではなく、これが真理かどうか知ろうと自分自身で聖書を読むのではなく、なぜなら、あなたは真理を知りたくないから、真理を求めない。真理が身近に来ると扉を閉め、鍵をかける。嘘の人生を送りたいから、真理はここに入って来られない。それが世です。私たちはクリスチャンとして、私たち自身が真理に対して無感覚になる世に飲まれないう気をつけねばなりません。そういう状態になる可能性があります。良い事ではありません。聞く耳がないと、私たちの生活で公正な試練にあうのは困難です。ピラトが満足しているように、人々は満足しているのでしょう。彼はユダヤ人のもとに戻って告げました。

「私はあの人に何の罪も認めない。」繰り返しますが、彼はイエスを釈放しなかった。ピラトは人を喜ばせたい人物だから。それが彼でした。しかし、そうすることによって、彼は主に忌み嫌われる存在になりました。「箴言」で読みませんでしたか？

**「悪人の計画は主に忌み嫌われる。」(箴言 15:26)**

それが忌み嫌われることです。では39節、40節です。ピラトは、自分が両方の立場に立つことで、すべてを解決できると考えているようです。神の御言葉をお読みします。

**ヨハネ 18**

**39 過越の祭りでは、だれか一人をおまえたちのために釈放する慣わしがある。おまえたちは、ユダヤ人の王を釈放することを望むか。」**

これを聞いてください。

**40 すると、彼らは再び大声をあげて、「その人ではなく、バラバを」と言った。バラバは強盗であった。**繰り返しますが、これがピラトが正義の人に見せようとした作戦なら、更に裏目に出ます。でも、彼が正義の人ではなかったのも、とにかくそのつもりだったとは思えません。ただ、両者を演じ分けただけです。こんにち、多くの政治家がそうしてますよ。彼らは票を得るためなら何でも言うし、何でもします。そこに信頼を置くのですか？ それが私たちが戦う王国なのですか？ 私たちが頼りにする事ですか？ 誤解しないでください。投票の義務がありますから。分かっています。しかし皆さん、私が言っていることをよく分かっているでしょ。時間の大半をこの世のために戦っていると、ふむ。。あなたはどのような王に仕えているのですか？ ここに、救世主の運命を左右する慣習があります。正義じゃなく、慣習です。どのように法律を曲げ、捻じ曲げ、壊し、計略に合うようにするか、分かるでしょう。ここでピラトはイエスを "ユダヤの王" と呼びます。単にイエスと呼べるのに。しかしピラトは、それが彼らを興奮させることを知っていました。「ユダヤの王を釈放してほしいか？」でしょ？ 彼はこの状況を解決することができたはずですが、なのに、彼はそれを煽り続けました。ピラトは、このことが彼らの神経を逆なですることを分かっていました。しかしこれは、真理を尊重しないとき、人々がすることです。ふざけて遊ぶ。それがあなたのする事です。なぜなら、あなたにとって真理はほとんど価値を持たないからです。冗談なのです。それが真実だと分かっている。だから、強盗のバラバを釈放するよう叫ぶのです。彼は本当に解放されたことが聖書にあります。キリストよりも犯罪者を。ご存知の方も多いと思いますがイエス・キ

リストの代わりに解放される者が、同じ名前でありながら、異なる父親の支配下にあるというのは、なんとも皮肉です。聖霊はすごいですね。この真理は「マタイの福音書 27 章」15 節から 16 節にあります。神の御言葉をお読みします。

## マタイ 27

15 ところで、総督は祭りのたびに、群衆のため彼らが望む囚人を一人釈放することになっていた。

16 そのころ、バラバ・イエスという、名の知れた囚人が捕らえられていた。

名の知れた囚人の名は、バラバ・イエス。これが、彼らが釈放したかった人です。バラバという名前の意味は、「父の息子」です。要するに、彼らは真理の父の息子ではなく、偽りの父の息子を選んだということです。これが今、世がこんにちまで続けていることでは？ 嘘が愛され、自由になる。しかし真理は常に試練にあります。はりつけが待っています。しかし、真理は一度十字架にかけられ、永遠に復活しました。世よ、理解してください。あなたは嘘のバラバを解放したい。どうぞお好きに。あなたは、名の知れた真理を奪う囚人に、この地を彷徨わせたい。どうぞ。それが、世の視点です。彼らはむしろ偽りの息子であるのを望んでいます。しかし神は、私たちが名のあるキリストの囚人となるように召されました。真理の保持者として。真理の守り手として。誰にも奪えない真理。どんな権威も封じ込めることはできません。神の国は目前に迫っています。実はもう既に手にしようとしています。

「まだ発見されていない別の真理があるかもよ」そんなあなたの探求は無駄です。今までその成果がありましたか？ 人を見てください。私たちはいかに無知なのか。ボヤージュ衛星は何十年前前から、他の何かを探していますよ。そうやって、世で真理を探すのです。そこまでして。思いませんか？ それくらい、もう限界なんです。いつかは誰もが真理に直面することになります。ある時点で、ピラトはそれを知りました。彼の試練がどうなったか、真実は誰も知りません。そこで、あなたへの質問です。あなたの試練はどうなり、どのような結末を迎えるのか？ あなたは偽りの父の子になるのですか？ それとも、真の生ける神の子ですか？ ピラトは王国を愛していたと思われれます。自分が支配している国を愛していました。でも結局は、あの王国は滅びます。地上のすべての王国も同じように。そしてその滅び方は大きいでしょう。しかし、あなたは、その滅びの一端を担う必要はありません。なぜなら私たちは皆、永遠に続く真理の王国の一員になれるからです。それが神の御国です。神は、私たちが神と和解することを望んでおられます。イエス・キリストの福音によって、子どもにでも分かるシンプルな方法です。

イエス・キリストの福音/ゴスペルとは、聖書によると、イエスが（地上に）来られ、十字架に掛けられ、葬られ、3 日目によみがえられたこと。ABC のようにシンプルで、救われるための唯一の方法ではなく、1 つの方法です。

A：自分が神に背いた罪びとであるのを、Admit/認める または、Acknowledge/認識する。

私たち誰しもが罪びとです。私たちには救い主が必要です。救い主とは、イエス・キリストです。

ローマ人への手紙 3 章 10 節に書かれています。

「義人（正しい者）はいない。一人もない。」

ローマ人への手紙 3 章 23 節

「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、」

救い主がいなければ、誰も天国に入れません。人々がどんなに自分を良いと思っても、決して十分良くありません。ローマ人への手紙 6 章 23 節が物語っています。

「罪の報酬は死です。しかし、神の賜物は私たちの主キリスト・イエスによる永遠の命です。」（ローマ

6:23)

それが A です。次は、

B : Believe/信じる。C : Confess/告白する。両方、ローマ人への手紙 10 章 9-10 節、御言葉をお読みします。

「あなたの口でイエスは主と”告白”し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせた”信じる”なら、あなたは救われるからです。」

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

どうか、知っておいて下さい。真理の試練は終わります。神の御言葉によると、終わります。神が勝利を持っておられます。既に勝たれました。イエスが、もうまもなく御国を建てられます。御言葉の中で、主は特に「第二ペテロ 3 章 9 節」でこう仰っています。

## II ペテロ 3

9 主は、ある人たちが遅れているとと思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

私たちの誰もが受け取るに値しないこの無償の贈り物を拒否しないでください。聖書は語ります。

「主権はその（イエスの）肩にある。」（イザヤ 9:6）

その主権の一部になるのをお勧めします。イエスの御足が死へと踏みつける偽りの父の子ではなく。ご起立ください。祈りましょう。

天のお父様。主よ、あなたの真理の御言葉にあなたの強大で力強い御言葉に心から感謝します。どんなにシンプルでも どんなにかかっても あなたが前を進まれ、して下さいます。あなたの真理は壊れることなく、揺るぎなく、あなたが宣言されたように、大胆にそれを語る事ができる真理の心を私たちに与えてください。私たちに与えられた残り少ない時間、良き証人としてくださいますように。聖霊の御力に感謝します。今日、このメッセージを聞く全ての人の上に、聖霊が与えられますように。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

-----  
メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7